

農地マネジメントの推進

要約

県内の耕作放棄地面積が増加傾向にある中、耕作放棄地活用を推進するため農地中間管理事業の周知活動を行い農地のマッチングが進んだ（南部管内39.9ha）。

また農作業の機械化による農地活用モデル展示圃を設置して耕作放棄地解消手法の展示を実施し50aの実践に繋がった。

現状(背景)と課題

- ・農地を担い手に繋げる手法ができたが周知が進んでおらず、貸付希望者の増加に繋がっていない。また担い手の借り受け希望も満たされていない。
- ・耕作放棄地が596.4ha(15セクタ)で増加傾向にあり再生利用が進まない。

目標

- ・農地マッチング面積 2.5ha
- ・農地活用モデル実践 50a

活動内容

- ・農地マネジメントチーム活動で関係機関が連携を図り、農地の出し手農家の発掘のため各種会合や広報誌等で農地中間管理事業の周知活動を実施。
- ・耕作放棄地解消の支援のため、加工用キャベツの機械化一貫体系による農地活用モデルの展示圃を設置。
- ・農地活用モデル実践の支援。

成果

- ・農地中間管理事業の周知を行い、8.6ha（33件、見込み含む）のマッチングができた。
- ・加工用キャベツの機械化一貫体系による農地活用モデルの展示圃を1カ所（20a）設置した。
- ・農地活用モデルの実践として農事組合法人ゆめ野山に働きかけ加工用キャベツ50aの栽培を支援した。



五條市経営所得安定対策説明会での事業PR (H29. 4/5~22)



半自動移植機による加工用キャベツの定植 (H29. 9. 1)



加工用キャベツの生育状況 (H29. 11. 6)

南部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手・農地マネジメント係 堀野、萩原
農地マネジメント推進事業
なら農地有効活用推進事業

普及活動のポイント

- ・農地マネジメントチームが連携を密に取ることで事業周知が進み、農地の出し手や受け手の情報共有およびマッチングが効果的に実施できた。
- ・農地の効率的な活用方法を展示するため、集落営農組織の経営改善と合わせて組織のリーダーに提案し展示圃と実証圃の設置ができた。

対象の変化

- ・事業周知を進めているがまだまだ農地の出し手が少なく、周知方法を工夫しながらさらなる周知活動が必要。
- ・集落営農と連携した展示圃の設置で農地活用モデルが進むとともに、集落でも経営の柱として積極的に取り組み実証圃の設置に繋がった。

対象者からのコメント

- ・集落営農で実施した1年目の展示圃は気象条件の影響で失敗に終わったが、2年目はそれを踏まえて問題点を改善し収益に繋げることができ栽培にも自信が持てた。

これからの活動ビジョン

- ・引き続き農地マネジメントチームが連携を密にとり効果的な事業周知に努め、特に農地利用最適化推進員については受け手情報を確実に共有しマッチングに繋げて行く。
- ・耕作放棄地解消の支援については、本年度実施した展示圃で、栽培技術及び機械化の点で見つかった課題（定植後の灌水、中耕・追肥、防除）について、解決方法の検討と展示圃の設置を行う。

活動体制

- ・**なら担い手・農地サポートセンター**：農地の出し手・受け手の募集、関連情報のとりまとめ、広報媒体の作成
- ・**市町村**：事業の広報、担い手の確保、出し手の掘り起こし
- ・**農業委員会**：事業の広報、農地情報の共有
- ・**担い手・農地マネジメント課**：推進方針の企画立案、補助事業の創設
- ・**農林振興事務所**：補助事業の提案、モデル圃の設置

用語解説

農地中間管理事業

農地中間管理機構（奈良県ではなら担い手・農地サポートセンター）を使った農地の貸し借りの仕組み。機構は、農地を貸したいという農家から農地を借り受け、地域の中心となる担い手に農地の集積を進める。